

★ 進級おめでとう！そして、新型コロナウイルスに負けるな！(Part 2)

(1) 「生命尊重」の錦の御旗のもと、生徒や保護者、先生方の心はスタスタ

何の根拠も示されない突然の全国一斉臨時休校に始まり、卒業式の中止や簡素化・甲子園中止と、生徒の心は、もうスタスタです。「生徒の生命の安全が最優先」と言われたら反論できる人はいないでしょう。でも、だからと言って生徒や保護者の心がスタスタになってもいいものなのではないでしょうか。卒業式は生徒の卒業を認定するだけでなく、保護者に我が子の晴れがましい姿を見ていただくという点に大きな意味があります。生徒と教職員だけの卒業式なら予行と同じです。教育委員会や来賓の祝辞を省き、時間を短縮するのは理解できます。短時間なら、寒くても体育館の全部窓を開け放して実施するという方法もあったでしょう。全員にカイロ持参を指示すればいいです。大切なことは、たとえ短時間であっても生徒・保護者・教職員と一緒に卒業を祝うことが重要です。「それが危険なんだ」と言われたら返す言葉もありませんが、教育者の末席を汚す者としては、生徒の心が次々と傷付いていくのを見ていられません！ここ数日、これから卒業式を行う学校に対して、保護者から参列させてほしいという要望が相次いでいるそうです。当然です。また、甲子園を目指していた球児にとって、3年間の集大成がなくなったことは、生きる目的を失ったくらい衝撃でしょう。私も10年間高校の校長をしていましたから、よく分かります。受けた心のダメージは、首相や文科大臣が謝罪したくらいでは到底癒されるものではありません。次は、オリパラの選手の心が砕けるような指示が出されないことを心から祈念しています。



(2) この国に住む人たちの人間性は、地に落ちたのでしょうか？

新型コロナウイルスの蔓延に伴い、トイレトペーパーが不足するというデマが出てパニックが生じたり、足りないマスクの高額転売が起きたり、マスクを買いに来た客が喧嘩したり、陽性判定者が「周りに移してやる！」と意図的に店を訪れたり、・・・ナント情けないことでしょう。個人面接練習ではありませんが、まさに教育による規範意識や思いやりの心の育成の必要性を感じます。思えば、9年前の東日本大震災では、倒壊したスーパーから商品が全く盗まれないことが世界の関心事になっていました。前回のサッカーワールドカップでは、日本が負けた後、日本のサポーターがみんな観客席のごみを拾っている場面が世界の称賛を浴びました。そんなステキな感覚は、どこに行ってしまったのでしょうか。本当に残念なことです。

(3) 電車の車内広告から

先日、電車の車内広告に「**オリンピックは超人、パラリンピアンは偉人**」と書かれているのを見ました。「なるほど！」と思いました。オリンピックとパラリンピアンどちらが優れているのか比較はできません。それぞれに大変な努力があったはずで、TVを見てるとオリンピック・プロ野球選手・プロサッカー選手などは、必ず怪我や病氣と闘っています。何度も心が折れたことでしょう。それらを克服してオリンピックに臨んでいます。卓球やマラソンなどは、代表選手になるための選考大会で地獄の闘いを繰り広げてきたことは記憶に新しいです。パラリンピアンに至っては、それらの苦勞に加えて心身のハンディさえ乗り越えて2020年を迎えているはずで、私は、「生命尊重のためだから延期や中止は仕方ない」とはとて言えません。選手の皆さんの心が、生徒のようにスタスタになってしまう場面が来ないことを切に望みます。

(4) リーダー論

どんな組織においてもリーダーであることは大変です。常に責任が問われます。失敗は許されません。規模は小さいですが、10年間校長をしてきたので多少は分かります。私は、リーダーとして大切なことは次の3つであると思いつつ校長をしてきました。それは、①常に組織のメンバーの心身の安全・健康確保を考える。②絶対に自らの保身を考へない。③部下に対して、決してはしごを外さない。①：身体の健康はもちろんですが、心の健康維持も重要です。そのためには、生徒や保護者・教職員の思いや願いをしっかり把握し、十分に説明することです。②：リーダーには常に職を賭けて対応する覚悟が必要です。自分の立場を守ろうとするのは最悪です。そういうリーダーは、周囲の意見を聞きません。だから判断を誤ります。誤っても修正しません。そういう組織は、衰退するだけです。③：部下に対して指示をしたら、その責任はリーダーが取らなければなりません。安易に撤回したり、部下に責任を擦り付けたりするのは論外です。「**手柄は部下に、責任は自分に**」を実行できるリーダーこそ、危機的状況には必要です。

★ 今後の面接練習等

3/13の教職課程センター運営委員会で、3月下旬～4月の「**集団討論練習**」「**教育実習向模擬授業**」の中止命令が出ました。全て埋まっていた日程表なのに大変申し訳ないことです。今後も7月の教員採用試験に向けて、最大限の支援をしていきます。学年を問わず、気軽に相談室に来てください。また、「こがねい」や授業を通して情報提供をしていきます。こんなご時世なので今まで以上に教採合格に向けての主体性が求められています。頑張ってください。

《合格するための願書等の書き方》

★ どの自治体も3月下旬から願書受付が始まります。Web 受付もあります。受付と同時に教員採用試験が始まります。願書の締め切りは自治体によって違いますが、遅くとも5月の連休のころが応募期限です。早めに準備してください。願書は2次試験の面接官の手にありますから、願書に書いた志望理由と面接で話す志望理由が違っていたら大変です。願書をきちんと書かないと合格できません。1次試験合格者に渡される「面接票」や「自己PRカード」でも同じです。是非、面接官が合格させたいくなる書き方をしましょう！そこで、今日は、「書類の書き方特集」です。

★ 願書を提出前に添削します。必ず下書きを相談室に提出してください。

(1) 面接官になったつもりで書こう！

面接官は、試験会場でいきなり書類を見せられて、その中から質問しなければなりません。じっくり読む時間は、ありません。つまり、書類を書くときに一番気を付けることは、「一目見ただけで内容が面接官に伝わる」ということです。私には面接官の経験が山ほどあります。書類の狭い欄の中にびっしりと論文のように書いてあるのを見ると、それだけで不合格にしたいくなります。なぜなら、相手に自分の言いたいことを伝えるという教員としての適性がないからです。そういう書類を書く人は決まって、面接でも答えがやたらと長いです。最悪です。「面接極意書」に書きましたが、弁論大会のように一方的に語る人は面接開始5分でアウトです。「面接は、テニスのラリー」です。ラリーがたくさん続けば合格です。そして、**面接官のサーブは、提出した書類から出されるのです。**書類の書き方によって、打ちやすいサーブが強烈なサーブかが決まります。だいいち、小さな字でびっしり書いて「読めるもんなら読んでろ」というような書類は、面接官に対して失礼です。礼儀知らずの人は教育業界には不要です。

(2) とにかく目立たせよう！

何を目立たせるのか？それは各欄の内容、つまり自分のウリです。目立たせるためには**見出し**が必要で、論文で言えば、柱です。その柱だけが目立ればいいのです。要は、質問（サーブ）のネタが見付かれればいいのですから、面接官は中身をじっくりと読みません。見出しだけを見て質問することが多いです。ということは、**打ちやすいサーブが来るように見出しに仕掛けをしておく**のです。私は、**見出しの1行を□で囲んでしまう**方法をお勧めします。こういう書類を見ると、面接官はほっとします。極端に言えば、それだけで合格させたいくなります。これは、私の経験からかなり確かです。面接官も人間です。その時の気分もあります。どうせならいい気分で面接してもらった方が有利なのは、言うまでもないでしょう。



(3) 何のために書かせているのかを自覚しよう！

書かせる一番の目的は、面接の質問のネタです。でも実際は、それだけではないのです。面接官は、**書類の書き方から、その人となりを感じる**のです。面接官は字の大きさ、丁寧さ、縦横の揃え方、誤字脱字、文法の正しさなどから、教職への意欲、生徒への愛情、教員としての常識、教壇に立たせられる安心感、危機管理能力、生徒に分かりやすく指導できる専門性 etc などを一瞬で見抜きます。その所要時間は、5分とかかりません。その上で、面接の初めの5分間のやり取りで仮評価を付けます。10点満点だとして、この段階で7点以上ないと合格しません。要注意です。

(4) 求めていることに正対すること！

論文もそうですが、書くべき内容でないことを書いたら即アウトです。教員志望理由なのか、当該自治体の志望理由なのかをいれ加減にはいけません。もし、「東京都の教員志望理由」という項目なら、東京都ならではの理由になっている必要があります。例えば、「数学のよさを生徒に知らせたいから」では、他県でも通用してしまう理由です。そうは言っても、**重要なのは「教員になって自分が何をしたいのか」ということ**です。「東京都は教員研修が充実しているからです」などと言えば、「どんな研修がありますか？」などと突っ込まれて墓穴を掘ります。まずは、**自分のやりたいことがあって、その後に東京都教育ビジョンを見て、合う項目を探す**のです。先ほどの例では、「東京都教育ビジョンにある理数教育の充実のために、数学のよさを生徒に感得させたいから」とすれば、東京都バージョンになるでしょう。そして、**志望理由に「恩師の影響」と書くのは絶対にやめましょう！**これは、ほとんどの受験生が書きます。だから、面接官が飽きているというハンディを背負います。わざわざ不利な要素をつくる必要はないですよ。

(5) 簡潔書きが基本！

自分の経歴や特技などを書く欄があります。これらを欄の中にびっしり書くことは、ほとんどないでしょう。隙間ができるはずで、では、どこに文字を書くか？欄の中央に書き、周囲を空けるのか？いいえ、違います。**欄の中にシャープペンシルで薄くマス目を引き、端から縦横を揃えて、左上から書く**のです。そして、**清書した後にマス目を消します**。もちろん、そうしなければ不合格になるというものではありません。しかし、そうすることで書類に人柄が出るのです。面接官が、読みやすくなるのです。読み手に配慮できる人間は、まちがいなく生徒や保護者にも配慮できます。教育委員会は、そういう人物を求めているのです。**達筆でなくても構いません。要は、丁寧に書いてあるかどうか**が重要です。さらに言えば、**ひらがなを漢字よりも少し小さく書くと全体がきれいに整って見えます**。

【オマケ】突っ込んでくる面接官は、イヤミな人でしょうか？

面接官の中には、自分の答えに対して「他には？」「具体的には？」「それで解決しますか？」などと、どんどん突っ込んでくる人がいます。受験生としては、恐怖を感じる場面です。でも実は、**この面接官は味方**なのです。自分の答えが不十分だったりの外的外れだったとき、そのままでは不合格になってしまいます。そこで、**もっといい答えを述べるチャンス**をくれているのです。面接官は、大抵3人です。質問者以外も評価しています。突っ込んでくる面接官は敵ではなく、他の面接官の評価を上げる手伝いをしてくれているのです。ホントです。私の経験から言えます。

★ **諸君の教員採用試験に対する意欲は、とっても素晴らしいです！ 全員合格を期待しています！**